

『刑事司法とジェンダー』合評会

性暴力加害者の責任を問う、ということ

『刑事司法とジェンダー』(インパクト出版会)の刊行から半年。
警察官から社会学者に転じた経歴をもつ著者が、
ある連続強姦事件に注目、裁判の傍聴や捜査記録の精査、
加害者に対する接見や書簡の往復等を通じて
性暴力を抑止する法のあり方を探究した本書は、
学術的にも社会的にも高い注目を集めてきました。
今回は、自らのセクシュアリティと向き合った
『感じない男』(ちくま文庫)で大きな反響を呼んだ森岡正博さん、
『毒婦。木嶋佳苗100日裁判傍聴記』(朝日新聞出版)で
司法関係者たちの女性観を鋭く描き出した北原みのりさんを
コメンテータにお迎えし、
著者の牧野雅子さんとともに合評会を開催します。
刑事司法、性暴力支援、ジェンダー論／フェミニズム／男性学、
インタビュー調査にご関心のある方など、
多数のご参加をお待ちしています。

日時●2013年10月20日(日)
13:00-16:30(12:30開場)
会場●京都大学吉田キャンパス 本部構内
文学部新館2階 第7講義室

登壇者●北原みのりさん(ラブピースクラブ代表)
森岡正博さん(大阪府立大学)
牧野雅子さん(京都大学)
『刑事司法とジェンダー』著者(登壇順)

司会●木下直子さん(九州大学)
参加費無料、申し込み不要

